

日本脳神経外科救急学会—20周年のあゆみ—

河本圭司¹⁾, 島 克司²⁾, 栗栖 薫³⁾, 奥寺 敬⁴⁾, 片山容一⁵⁾, 加藤庸子⁶⁾, 黒岩敏彦⁷⁾,
塩川芳昭⁸⁾, 田宮 隆⁹⁾, 松前光紀¹⁰⁾, 平山晃康¹¹⁾, 岩瀬正顕¹²⁾, 浅井昭雄¹³⁾

History of Japanese Society of Neurosurgical Emergency for 20 years

by

Keiji Kawamoto¹⁾, Katsuji Shima²⁾, Kaoru Kurisu³⁾, Hiroshi Okudera⁴⁾, Youichi Katayama⁵⁾,
Yoko Kato⁶⁾, Toshihiko Kuroiwa⁷⁾, Yoshiaki Shiokawa⁸⁾, Takashi Tamiya⁹⁾,
Mitsunori Matsumae¹⁰⁾, Teruyasu Hirayama¹¹⁾, Masaaki Iwase¹²⁾, and Akio Asai¹³⁾

from

Professor emeritus, Kansai Medical University, Consultant. The Japan Society of Neurosurgical
Emergency¹⁾

Professor emeritus, Department of Neurosurgery, National Defense Medical College, Consultant.
The Japan Society of Neurosurgical Emergency²⁾

Professor, Department of Neurosurgery Graduate School of Biomedical and Health Sciences
Hiroshima University³⁾

Professor, National University Corporation University of Toyama Department of Crisis Medicine,
Graduate School of Medicine Department of Emergency and Disaster Medicine, School of
Medicine Emergency Center and Intensive Care Unit, Toyama University Hospital⁴⁾
Vice-president, Shonan University of Medical Sciences⁵⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Fujita Health University Banbuntane Hotokukai Hospital⁶⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Osaka Medical College⁶⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Osaka Medical College⁷⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Kyorin University Faculty of Medicine⁸⁾

Professor, Department of Neurological Surgery Faculty of Medicine, Kagawa University⁹⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Tokai University School of Medicine¹⁰⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Nihon University School of Medicine¹¹⁾

Hospital Professor, Department of Neurosurgery, Kansai Medical University Takii Hospital¹²⁾

Professor, Department of Neurosurgery, Kansai Medical University Hirakata Hospital¹³⁾

We briefly report the history of Japanese Society of Neurosurgical Emergency (JSNE) as a memory of 20 years foundation.

On the purpose of our society, which targeted to the disease of neurosurgical medicine for emergency care, meeting of Kansai facial injury was started in 1990 from the Kansai district. and changed the name into Osaka head and facial emergency care meeting. in 1992. Kansai neurosurgical emergency meeting was established in 1996 and was newly established as the JSNE in 2000. In 2012, it received authorization as a Non profit organization (NPO) from Osaka prefecture.

Members of JSNE are composed of neurosurgeons, emergency medicine doctors and nurses, emergency medical technicians (as a paramedical supporters).

From the early stage, JSNE newly adopted the system of administrator, and the special officers were selected as a management leader of JSNE.

As another characteristic of JSNE, PNLIS (the primary neurosurgical life support) was established in 2009 by the special committee PNLIS is spreading world wide. as a Japanese original neurosurgical practical exercise with use of the guide book of "Basic course of neurosurgical emergency" and "Hand book of neurosurgical emergency" by the JSNE organization.

(Received October 29, 2015)

(Accepted October 29, 2015)

Key words: Japanese Society of Neurosurgical Emergency, history, primary neurosurgical life support, emergency medicine

始めに

2015年、日本脳神経外科救急学会 第20回記念大会が塩川芳昭会長のもとで開催され、会長から20周年の記念講演を依頼された。この時にまとめた学会の歴史を学会誌に投稿するように依頼され、学会の歴史を残す節目として報告する。

1 学会設立前の歴史

1990年、関西地区で、“大阪顔面外傷研究会”が発足した。当時、関西医科大学 脳神経外科から 松村 浩教授、河本圭司、川上勝弘、大阪医科大学脳神経外科から 太田富雄教授、黒岩敏彦、大阪医科大学形成外科から、田嶋定夫教授、久徳茂雄、大阪市立大学脳神経外科から白馬 明教授らが発起人となり、3大学が集まって懇話会のような形であった(図1)。

その後、1992年、脳神経外科、形成外科、救急科を中心とした第1回大阪頭部顔面救急医療懇話会と名前を変更し、関西医大脳神経外科(川上勝弘)が担当した。第2回は大阪医大脳神経外科(黒岩敏彦)が担当した。第3回は大阪医大形成外科(田中嘉雄)が担当した。

2 関西脳神経外科救急研究会の発足

頭部外傷、救急を中心とした会は、脳神経外科が主導権を握るようになり、1996年、脳神経外科医を中心とする研究会に改変した。第1回は、大阪医科大学 脳神経外科 長沢史郎先生が会長となった。この後、若手脳神経外科医を中心とし継続した。しかし、このころ関東地区では、同じような趣旨で“神経救急研究会”が発足していた。そこで、今後関西地区では若手が全国学会にするには難しいであろうと考え、両研究会が合同して学会を設立するのがよいと考え、関西からは、河本代表、黒岩、川上の3名で東京に向かい、神経救

急研究会の大和田隆代表(北里大学、救急センター)、有賀、横田の3名と相談し、両研究会を合併して、関東に本部を置くことを提案した。しかし、神経救急研究会からは、関西の脳外科医だけの研究会と、関東の耳鼻科、神経内科、脳神経外科、救急医から成る会との合併は、趣旨が異なるので、提案は却下された。

2000年、第5回は関西の名称を日本と改名し、有賀 徹教授(昭和大学医学部、救急医学)が会長となった。

3 日本脳神経外科救急学会の改名

2002年 片山容一会长(日本大学医学部 脳神経外科教授)により、研究会から学会の名称に変更した(図2)。

4 日本で初めての理事長制

2004年 初代理事長は神野哲夫(藤田保健衛生大学 脳神経外科 教授)

2代目 太田富雄(大阪医大 脳神経外科 教授)

3代目 河本圭司(関西医大 脳神経外科 教授)

4代目 鳥 克司(防衛医科大学 脳神経外科 教授)

5代目 栗栖 薫(広島大学 医学部脳神経外科 教授)

5 初めての救急医学講座からの会長

第12回 2007年 堤 晴彦会长(埼玉医大 高度救急センター 教授)

堤教授のときからプレホスピタルのジャンルを導入した(図3)。

6 看護師・消防士の参加

2004年、第9回栗栖会長の時から救命救急士、消防局の参加を行い、2008年、鳥 理事長のときに看護師、消防士も学会に参加するようになった。この時からは日本看護師神経学会の石山光枝理事長も参加できるようになった(図4)。

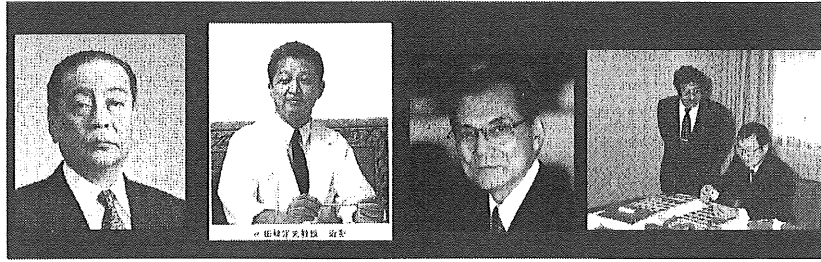


図1 大阪顔面外傷研究会 (1990年), 左から松村浩教授 (関西医科大学 脳神経外科), 田嶋定夫教授 (大阪医科大学形成外科), 太田富雄教授 (大阪医科大学脳神経外科), 白馬明教授 (大阪市立大学脳神経外科).

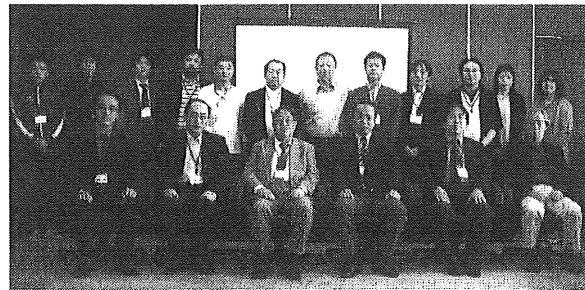


図2 日本脳神経外科救急学会 (2002年), 2002年 片山容一会長 (日本大学医学部 脳神経外科教授) の時に, 研究会から学会の名称に変更, 2010年PNLS開催 (左から2人目, 片山ディレクター, 後方 PNLS委員).

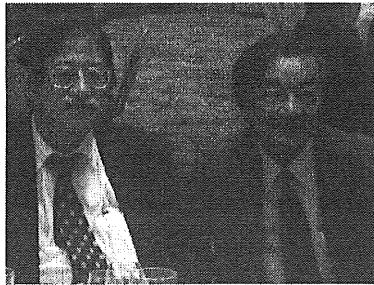


図3 初めての救急医学講座からの会長 (第12回 2007年 堤晴彦 (埼玉医大 高度救急センター教授)).

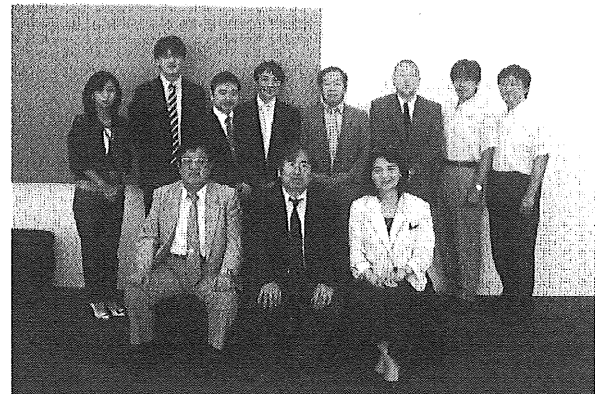


図5 PNLS名称決定 (2008年), 前列左から河本教授, 奥寺教授, 加藤教授.



図4 看護師・消防士の参加, 2008年 島理事長 (前列中央) 石山光枝理事長 (日本看護師神経学会, 後列 左から2人目).

7 PNLS 名称決定

2008年8月10日 藤田保健衛生大学 加藤庸子教授により名古屋で Immediate Stroke Life Support (ISLS) が開催された. この時加藤教授により奥寺敬教授 (富山大学医学部 危機管理医学講座) が脳外科医が主として作る Primary Neurosurgical Life Support (PNLS) の名称を提案し, 日本脳神経外科救急学会が取り入れることになった. この時 ISLS の主要メンバーは脳神経外科医から構成されているので, 彼らが PNLS の核になることと

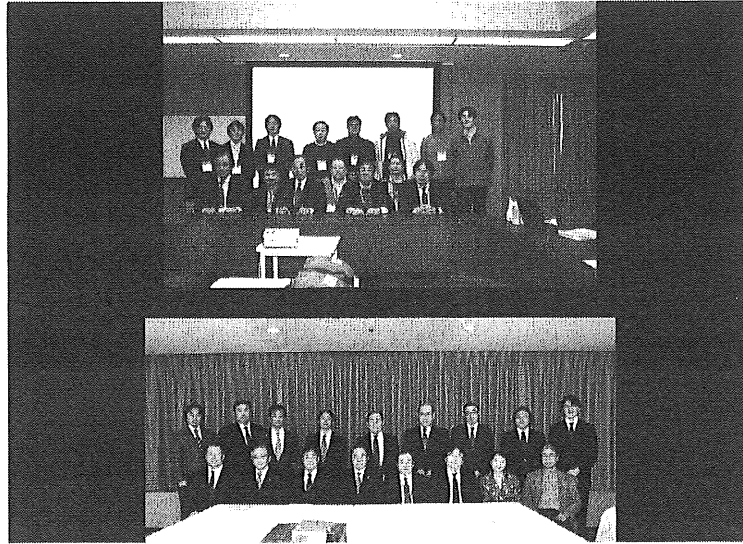


図6 PNLs コース開始. a) 島会長, 奥寺委員長 (前列左から3人目, 7人目), 2010年. b) 2011年.

なった (図5).

8 PNLs 開催の記録

第一回 PNLs コース (第14回日本脳神経外救急学会併設)

平成21年1月16日, 学会会長: 島 克司 (図6a, b)

ディレクター: 奥寺 敬

コースコーディネーター: 中村丈洋, 安心寺康彦

スタッフ27名 コース紹介

午前: ワークショップ (WS) 63名受講

午後: 26名, 計115名

2015年7月までに21回開催されている

第一回 PNLs インストラクター WS (ワークショップ)

関西医科大学滝井病院 平成21年8月16日

ディレクター: 奥寺 敬

コーディネーター: 河本圭司, 岩瀬正顕

スタッフ14名 (図7)

受講者20名 計34名

平成21年度 計150名

9 PNLs 委員 (ミトコンドリアの会) の活躍

委員長: 奥寺 敬

副委員長: 加藤庸子

PNLs 委員と参加者 (図8a)

委員の実演 (図8b)

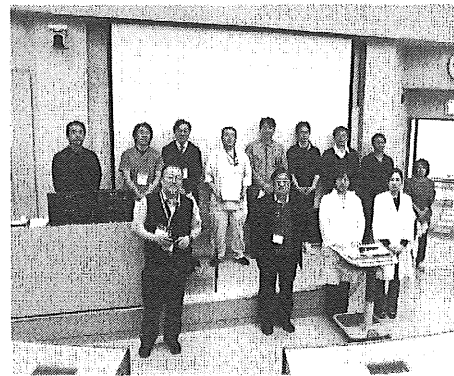


図7 第一回 PNLs インストラクター・ワークショップ, スタッフ (前列左からコーディネーター: 岩瀬, 河本). a) 2009年 PNLs 委員と参加者. b) インストラクターの実演.

10 第16回学会 (2011年) 初めての女性会長誕生

会長: 加藤庸子教授 (藤田衛生大学 脳神経外科) (図9a)

初めての海外との遠隔TV討論を企画 (図9b)

また, この会から国際委員会が発足した.

11 国際的にも誇れる PNLs

2011年 マレーシア

日本から13名出席 (図10)

12 法人化: 特定非営利活動 (NPO) 法人

2011年1月28日 第16回日本脳神経外科救急学会の総会で島 克司理事長の提案された法人化の申請が承認された.

2012年5月30日 大阪府より特定非営利活動

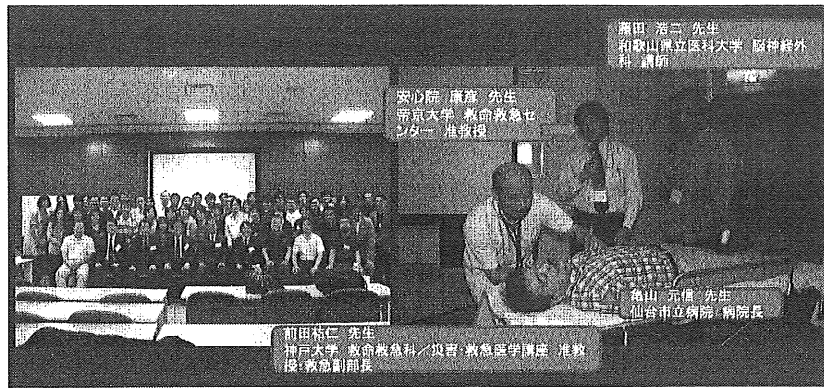


図8 PNLs委員の活躍

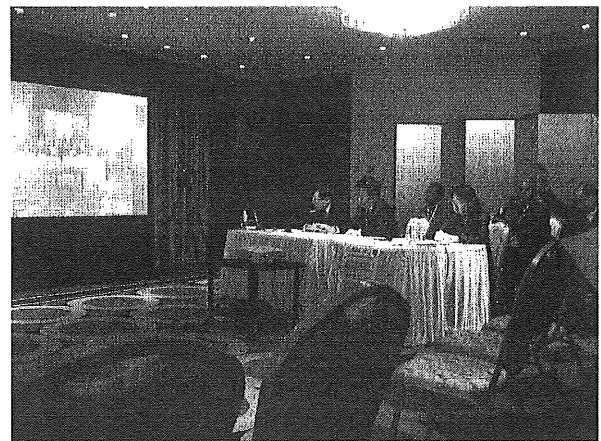
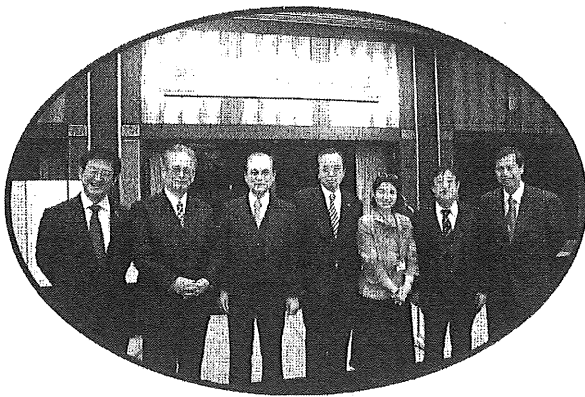


図9 第16回学会(2011年)初めて女性会長誕生. a) 左から 栗栖教授, 神野初代理事長, 太田2代目理事長, 鳥理事長, 会長 加藤庸子教授(藤田衛生大学 脳神経外科), 河本3代目理事長. b) 初めての海外との遠隔TV討論を企画.

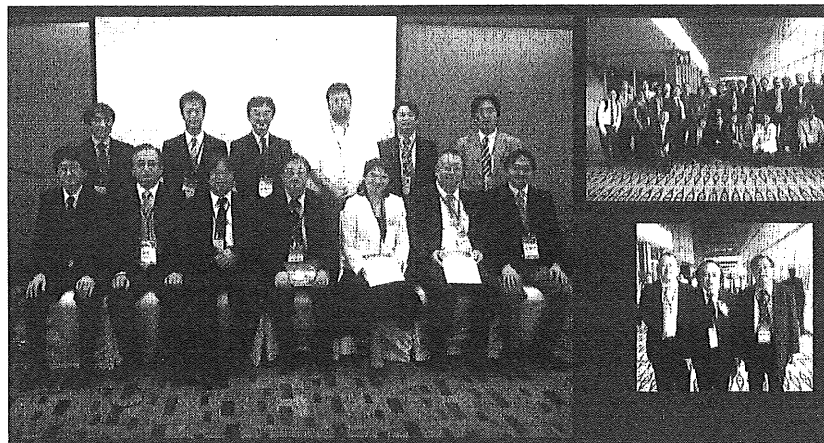


図10 海外で活躍するPNLS. 2011年 マレーシアでの国際PNLS開催. この後次々と海外でのPNLSが開催されている. a) 参加スタッフ. b) 参加者. c) 中央は会長.

法人の認証を受けて, 同日 特定非営利活動法人 日本脳神経外科救急学会が成立した. 同時に, 法人としての新しい学会の定款と定款施行細則が整備された.

13 事務局

1996年第1回関西脳神経外科救急研究会から現在まで, 関西医科大学 脳神経外科に事務局が設置されている. 1996年から事務局代表は河本圭司が担当した. 2011年から, 代表は浅井昭雄,

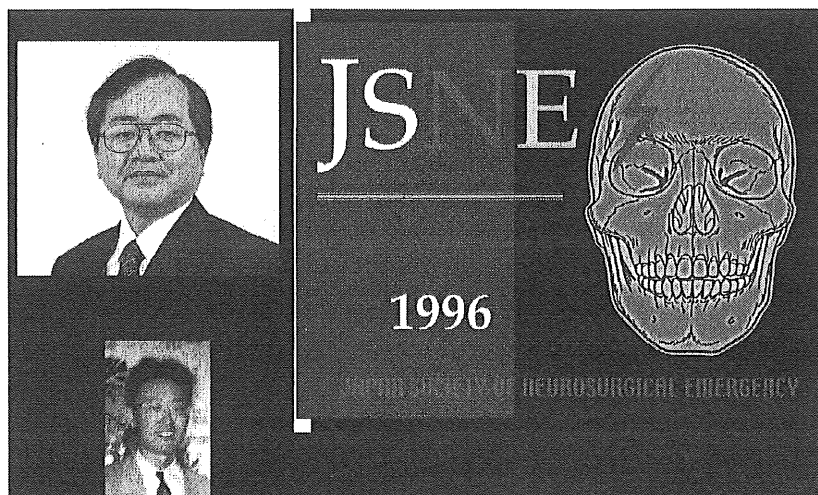


図11 a) 学会機関紙“Neurosurgical Emergency”1996年から(図11a). b) 学会ロゴは久徳茂雄氏. c) 編集局は, 大阪医科大学 脳神経外科, 編集委員長は黒岩敏彦教授が長年担当している.

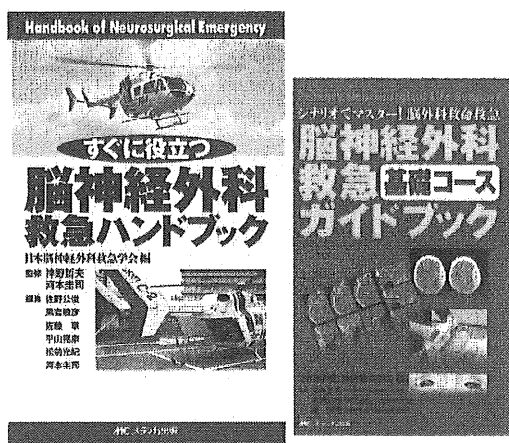


図12 出版. a) すぐに役立つ, 脳神経外科救急ハンドブック(2008). b) 脳神経外科救急 基礎コース ガイドブック(2009).

幹事は岩瀬正顕が担当している,

14 編集局

1996年から, 学会機関紙 “Neurosurgical Emergency” (図11a)

和文, 英文混合で年2回発刊. 編集局は, 大阪医科大学 脳神経外科, 編集委員長は黒岩敏彦教授が長年担当している(図11b). 学会ロゴは 久徳茂雄氏(図11c).

15 出版(日本脳神経外科救急学会編)(図12)

1. 出版名: すぐに役立つ, 脳神経外科救急ハンドブック(図12a)

監 修: 神野哲夫, 河本圭司

編 集: 佐野公俊, 黒岩敏彦, 平山晃康, 松

前光紀, 河本圭司

出版社: メディカ出版

出版年: 2008年

日本脳神経外科救急学会編

2. 出版名: 脳神経外科救急 基礎コース ガイドブック(図12b)

監 修: 河本圭司, 佐野公俊, 鳥 克司

出版社: メディカ出版

出版年: 2009年

日本脳神経外科救急学会編

3. 出版名: すぐに役立つ, 脳神経外科救急ハンドブック 改定2版

監 修: 河本圭司, 鳥 克司, 栗栖 薫

出版社: メディカ出版

出版年: 2015年

日本脳神経外科救急学会編

16 2011年 理事(図13)

17 歴代会長(表1)

18 20周年記念大会

2015年, 塩川会長により開催された, 特別講演として竹内一夫(杏林大学名誉学長)(図14-a)

特別講演: 厚生省“脳死に関する研究班(1983~1985)

この時, 学会旗(1996年, 河本理事長の提案で, 久徳茂雄評議員により作成された), 演者発表デスク前の小学会旗が, 河本顧問より寄贈された(図14-b).

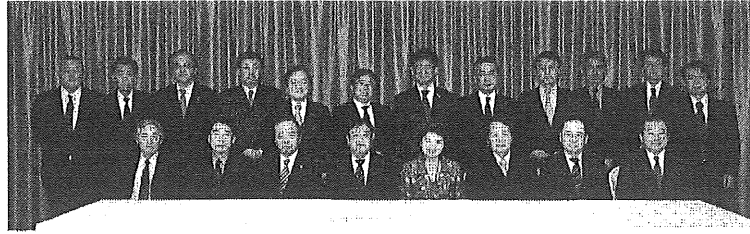


図 13 学会理事 (2011 年度).

表 1 歴代会長

大会名	開催日	テーマ	会長
第1回関西脳神経外科救急研究会	1996/01/27 ～1996/01/28		長澤史朗(大阪医科大学脳神経外科)
第2回関西脳神経外科救急研究会	1997/01/25 ～1997/01/26		織田祥史(神戸中央市民病院脳神経外科)
第3回脳神経外科救急研究会	1998/01/31		山木垂水(京都府立医科大学脳神経外科)
第4回脳神経外科救急研究会	1999/01/23 ～1999/01/24		藤田勝三(西神戸医療センター脳神経外科)
第5回日本脳神経外科救急研究会	2000/01/22 ～2000/01/23		有賀 徹(昭和大学医学部救急医学)
第6回日本脳神経外科救急研究会	2001/01/20 ～2001/01/21		重森 稔(久留米大学医学部脳神経外科)
第7回日本脳神経外科救急学会	2002/01/18 ～2002/01/19	脳神経外科救急におけるディビジョン・メーカー	片山容一(日本大学医学部脳神経外科)
第8回日本脳神経外科救急学会	2003/01/17 ～2003/01/18	脳神経外科救急の今後の展開	河本圭司(関西医科大学脳神経外科)
第9回日本脳神経外科救急学会	2004/01/23 ～2004/01/24	脳神経外科救急における陥りやすいピットフォールとその克服	栗栖 薫(広島大学脳神経外科)
第10回日本脳神経外科救急学会	2005/01/21 ～2005/01/22		神野哲夫(藤田保健衛生大学病院)
第11回日本脳神経外科救急学会	2006/01/20 ～2006/01/21	変革期の脳神経外科救急	黒岩敏彦(大阪医科大学脳神経外科)
第12回日本脳神経外科救急学会	2007/01/19 ～2007/01/20	脳神経外科医の果たす役割 プレホスピタルからER、そしてICU	堤 晴彦(埼玉医科大学総合医療センター)
第13回日本脳神経外科救急学会	2008/01/18 ～2008/01/19	脳神経外科救急医療の現状と課題	大野喜久郎(東京医科歯科大学脳神経外科)
第14回日本脳神経外科救急学会	2009/01/16 ～2009/01/17	実績の検証と将来の展望	島 克司(防衛医科大学校脳神経外科)
第15回日本脳神経外科救急学会	2010/02/26 ～2010/02/27	脳神経外科救急の原点を探る	小川武希(東京慈恵会医科大学救急医学講座)
第16回日本脳神経外科救急学会	2011/01/29 ～2011/01/30	脳神経外科救急、諸外国との格差	加藤庸子(藤田保健衛生大学医学部脳神経外科)
第17回日本脳神経外科救急学会	2012/01/27 ～2012/01/28	脳神経外科 学びの原点	松前光紀(東海大学医学部脳神経外科)
第18回日本脳神経外科救急学会	2013/02/08 ～2013/02/09	救急システムのあり方・再考	大熊洋揮(弘前大学医学部脳神経外科)
第19回日本脳神経外科救急学会	2014/01/11 ～2014/01/12	脳神経外科救急新時代—それぞれの専門医はいかにあるべきか—	奥寺 敬(富山大学危機管理医学講座)
第20回日本脳神経外科救急学会	2015/01/30 ～2015/01/31	NeurosurgicalEmergencyの今日的課題とは	塩川 芳昭(杏林大学医学部脳神経外科)

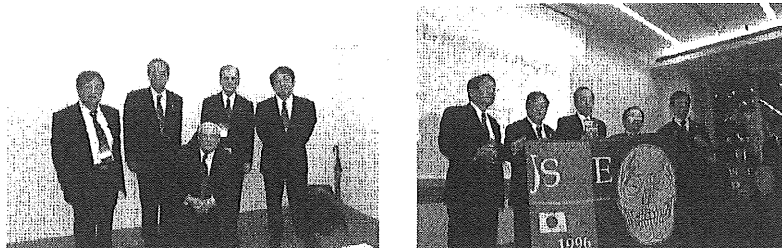


図 14 20周年記念大会. a) 竹内先生を囲んで(前列中央 竹内先生, 後列左から 河本, 島, 太田, 塩川会長). b) 新学会旗を囲んで.

謝 辞

学会設立前からの役員、20年間 歴代会長、学会役員、事務局、編集局の関係者の方々に、深く感謝の意を表します。

本論文発表に関して開示すべきCOIはありません。

文 献

- 1) 日本脳神経外科救急学会 PNLs 委員会：脳神経外科救急基礎コース・ガイドブック，メディカ出版，大阪，2009.
- 2) 中村文洋，奥寺 敬，岩瀬正顕，他：脳神経外科救急基礎（PNLS：Primary Neurosurgical Life Support）トライアルコース開催報告. *Neurosurg Emerg* 14：12-17, 2009.
- 3) 岩瀬正顕，島 克司，奥寺 敬，他：脳神経外科救急基礎（PNLS：Primary Neurosurgical Life Support）インストラクター・I ワークショップ開催報告. *Neurosurg Emerg* 14：10-116, 2010.
- 4) 安西 馨，國方美佐，横田佐和子，他：地域脳神経外科病院スタッフを対象にした脳神経外科救急基礎（Primary Neurosurgical Life Support：PNLS）コースの試み：地域救急災害医療研究 8：9-14, 2009.
- 5) Nakamura T, Ajimi Y, Okudera H, et al: The modules for ISLS/PNLS combined course as International Version: Report of Workshop in 9th International Conference of Cerebrovascular Surgery. *Asian J Neurosurg* 5: 95-100, 2010.
- 6) Nakamura T, Ajimi Y, Okudera H, et al: Report on the international Primary Neurosurgical Life Support course in the eighth Asian Congress of Neurological Surgeons in Kuala Lumpur, Malaysia *Asian J Neurosurg*. Jan-Jun; 6(1): 2-5. 2011.
- 7) 奥寺 敬：脳神経外科救急基礎（PNLS）コース報告 2010. 国内での展開と国際化. *脳神経外科速報*. 2011, 21(5), p. 572-573.
- 8) 安心院康彦，奥寺 敬：PNLS コース入門 1 PNLs ってなに？ *BRAIN NURSING* 90：194-201, 2012.
- 9) 高橋 恵，奥寺 敬，伊藤勝博，他：PNLS コース入門 2 PNLs コースの実際-第7回弘前 PNLs コースより. *BRAIN NURSING* 90：202-209, 2012.
- 10) Atsumi H, Matsumae M, Okudera H, et al: Introducing simulation training to young medical staff marks a significant milestone in educational preparation for neurosurgical emergencies. *Neurosurg Emerg* 18: 117-126, 2013.
- 11) 伊藤勝博，奥寺 敬，井水秀榮他：第13回 PNLs (primary neurosurgical life support 脳神経外科救急基礎) コース開催報告. *Neurosurg Emerg* 18：222-226, 2013.
- 12) 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会定款： *Neurosurg Emerg* 18：98-102, 2013.
- 13) 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会定款施行細則： *Neurosurg Emerg* 19：114-116, 2014.